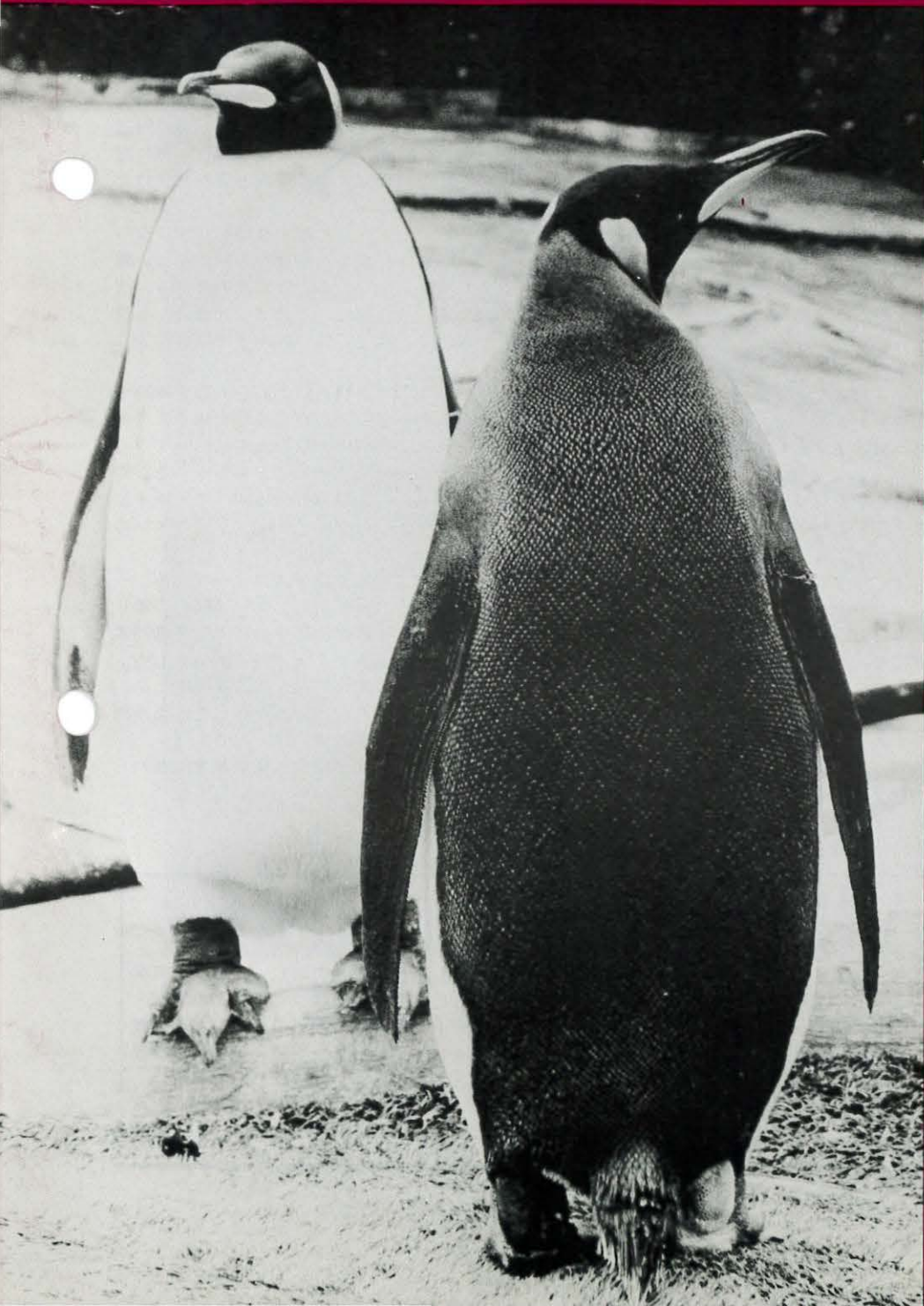


なきごえ



1981

2

大阪市
天王寺動物園協会



伊藤重朗

手のり文鳥を初めて飼ったのが10年前である。現在飼っているのが3代目。1代目・2代目・3代目とそれぞれの思い出がある。1代目は6年前、私が手術のため入院する日に急死した。家族は、もしかしたらと不吉な予

感がしたと云う。長男が、冷たくなった文鳥を手で温めながら「きっと、父さんの身代りになったんだよ」と云いながら墓を作ったと聞いている。手術は成功し、良性腫瘍で経過もよく、3ヶ月後無事退院した。家族が退院を祝ってくれた時、次男が「文鳥（愛称シロ）が父さんの身代りになって天国に行ってくれたんだよなあ、兄ちゃん」と云った言葉がいまでも強く耳に残っている。

それ以後、生き物は死ぬ時が可愛そうだからといって飼わなくなってしまった。家を新築して2~3ヶ月たったある日、次男が今一度文鳥を飼おうよと云い出した。母さんも兄ちゃんも賛成しているんだ、お願い。結局、私が手のり文鳥のヒナを買って来ることになった。翌日から元気なヒナを見つけるため、あっちこちの小鳥店を歩き廻った。先ず飼育管理の悪い店は避け、少々値は高くとも清潔な店を選ぶことにした。

ついに元気な2羽のヒナを見つけた。帰るなり小さな巣箱に入ったヒナを兄弟が覗き込む。「頭が邪魔だ」と喧嘩する。餌を与えると大きな口を開く。「可愛いね。名前はどする」「これシロ、これ少し黒いからクロ」とか、よく見るテレビはそっこのので巣箱にかじりついてた。1週間が過ぎた頃、クロがよく眠るようになった。体の調子でも悪いのかな、薬でも飲ませたら。父さん獣医なら治せるだろうとヤイヤイ云われ、努力してみたがその甲斐なく死んでしまった。家内が云った。「まだシロがいる、みんなで頑張ろう、小鳥店で教えてもらった飼い方を守ろう」その結果シロは元気に育った。1代目以上に立派な手のり文鳥になった。名前を呼べば飛んで来る。手をたたくと飛んでくる。頬擦りして

もじっとしている。時々噛むこともある。これがまた可愛い。夕食事には必ず籠から出す。テーブルの上で悪戯をする。明るい笑いのある生活となった。しかしある日、私が帰宅すると何時もなら誰かれなしに「お帰り」と大きな声がするのに電灯もテレビもついていない。何処かに出かけたのかな？家の中がシーンとしている。変だなあ、と思い部屋に入ると下の息子がしくしく泣いている。家内は正座し、うなだれている。上の息子は天井をにらみつけている。「どうしたノ」しばらくして上の息子が「逃げたノ」と一言云った。文鳥が逃げたことでのいろいろ云い争っていたところへ私が帰宅したため叱られるのを恐れていたのだ。私は「逃げたものは仕方がない、出来るだけ探してやれ、悔いが残るぞノ」と大きな声で云った。私は単車、息子達は自転車で附近一帯を探し廻った。空になった鳥籠をベランダに出し、ひょっとすれば帰って来るかもと望みをかけたが駄目であった。

「1代目のように死んだんじゃない。自由になって飛び廻っているよ、むしろ幸せかも知れんよ。誰か親切な人に飼われているよ」とか云いながら、沈み込んでいる息子達を見て、これはいけない、もう一度文鳥を飼って、明るい笑いのある家庭にしようと思った。

現在飼っているのが3代目である。鳥籠を掃除するもの。エサを与えるもの。夜に安眠出来るよう籠に布をかけるもの、各自が分担し大事に飼っている。

文鳥が4通りの鳴き方をする事もわかった。仲間を呼ぶ声「チッチッ」怒っている声「キイキイ」異性を求めて「スイツ、チョ、チョ」。気分がよいのか「チュン、チュン、チュン」

我が家になくはならないマスコットである。一つがいの文鳥を飼うことにより、動物の飼育の難しさや苦勞を身をもって感じ、息子達に天王寺動物園で働く人達が如何に大変であるか教えたりもした。

今年は酉年、昔から変化にとんだ波瀾の年とか、バタバタ貧乏とか云われるが、良い年になるよう酉年生れの私は頑張る次第です。

(大阪市中央卸売市場食品衛生検査所長)

なきごえ2月号もくじ

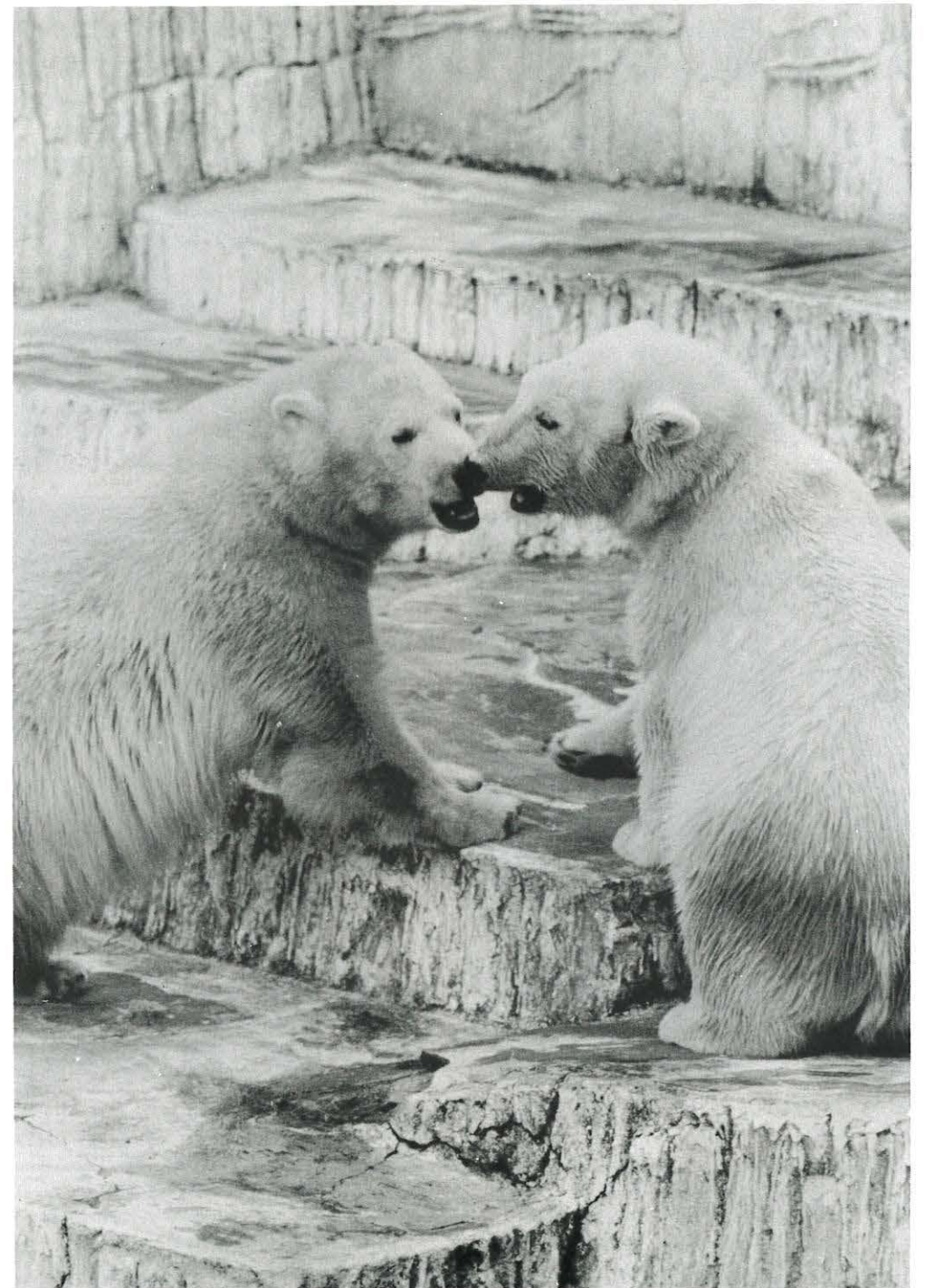
動物と私 2
 “北極グマの若いペア登場” 3
 動物園グラフ・動物園日記 4・5
 大阪に来たパンダ“ウェイウェイ” 6・7・8・9
 獣医室から㊟ 10
 動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“キングペンギン”

一年中でもっとも寒さの厳しい2月、熱帯産の動物たちにとっては一番つらい季節ですが、この寒さの中、とって元気のいいのが南極圏を故郷とするキングペンギン達、現在4羽が我らの季節と言わんばかりに過ごしています。

(撮影：農本 武志)



「ホッキョクグマの若いペア登場」

昨年12月15日に西ドイツからメスが、そして旭川からオスが入園。共に1才1ヵ月、毎日仲良く水浴びを楽しんでいます。

(撮影：中川 哲男)

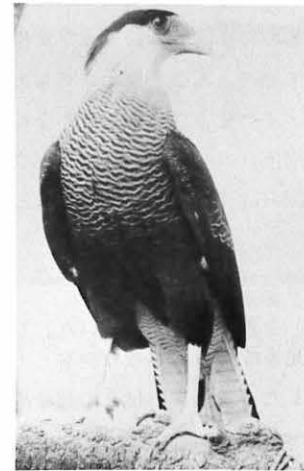
動物園 グラフ

“長寿鳥類ベスト10”

今年のトリ年にちなみ、当園で現在飼育中の鳥類の中で、長年飼育ベスト10を特集してみました。(飼育年数は昭和56年2月1日現在)



第2位 コンドル (オス、メス)
(23年4ヶ月)



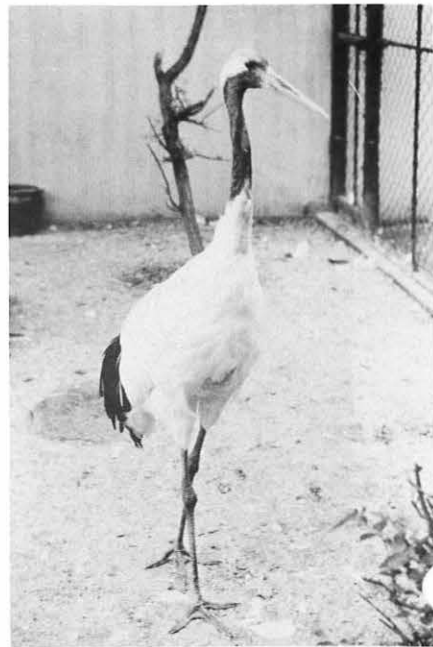
第4位 カラカラ (23年3ヶ月)



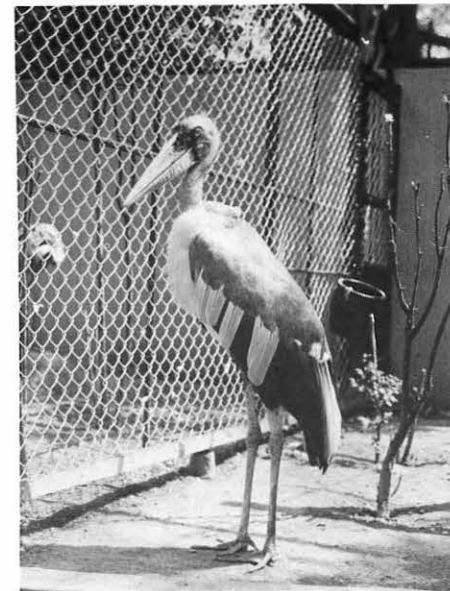
オオヅル (メス)(21年8ヶ月) 第5位
(オス)(18年3ヶ月) 第9位



第8位 オジロワシ (20年9ヶ月)



第1位 タンチョウ (31年11ヶ月)
鳥類のみならず、当園一の長寿動物です。



第6位 オオハゲコウ (21年2ヶ月)



第7位 ホオジロカンムリヅル (メス)
(21年2ヶ月)

第10位 チリーフラミンゴ (2羽)
(17年9ヶ月)

12・1月の動物園日記

- 12/15 かわいいホッキョクグマの子供たちが入園しました。この2頭は、まだ1才ですが、これから成長して繁殖が期待されます。
- 18 コンドルが卵を1つ産みましたが、割ってしまいました。
- 19 エミューが今年初めて卵を産んだので、人することにしました。
- 20 沖縄こどもの国へ、当園よりアオサギ2羽を寄贈しました。

- たので、切ってあげました。ニューカッスル病のワクチン接種をキジ類を中心に行いました。
- 12/21 インドクジャクが1羽、出血性腸炎で死亡しました。
- 22 サル山のニホンザルの雌が衰弱していたので、収容し治療しました。
- 23 新しく来たホッキョクグマの一般公開が、本日よりはじまりました。
- ネズミガシラアカツシガモ、ベトナムコクジャク各1羽ずつの寄贈がありました。
- 12/26 ホッキョクグマの雄が食餌をとらなくなっ

- たので、いろいろな種類の食べ物を与えています。
- 27 エミューが3卵目を産みました。雄のホッキョクグマがミルク以外何も食べなくなったので、治療を始めました。
- 28 イワトビペンギンが産卵しました。アグーチの雄が闘争のため死亡しました。
- 1/1 昨年生まれのレアの足の関節がはれていたため治療しました。
- ブラックバックの雄が角を折りました。
- 2 雄のホッキョクグマが元気、食欲を回復しプールにはじめて入りました。

- エトにちなむ「鶏のおもちゃ展」が始まりました。
- 8 ライオンの雌のハルと雄のタケオが交尾しました。
- 昨日、死産したカニクイザルの仔を母親から取り離しました。
- 13 チンパンジーのシュジーがかぜで治療中です。
- 雌アシカの右眼がはれてきたので投薬しています。
- 15 エミューが第8卵目を産みました。
- 17 昨年暮に入園し見合いをさせていたホッキョクグマを同居させました。広い放飼場で仲よくじゃれあっています。

大阪に来たパンダ、ウェイウェイ

調教をすればそれを覚える動物は、は虫類・鳥類・哺乳類、はては魚類までいろいろいますが、珍獣中の珍獣“パンダ”が芸を見せるということで、1月6日、上海市杂技団がウェイウェイを伴って来阪し、多くの市民に楽しい演技を披露しました。大阪に滞在中はパンダの他、サルや犬たちの飼料面、健康面、

★ウェイウェイの到着 1月6日午後4時30分、上海空港に差し回した日航のチャーター機のファーストクラスの座席を取払った場所に特製の檻の中に入って大阪入りをした。直ちに機内で動物検疫官や通関の検査を受けた後、大型ワゴン車に杂技団調教師など4名の付添いで6時すぎ会場入りした。当夜のウェイウェイの餌は輸送づかれもあり給餌しなかった。

★ウェイウェイの生いたち ウェイウェイは約8年前に中国の科学教育映画「パンダ」の撮影隊に四川省で捕えられました。母親パンダは射殺されたのかどうか定かではありませんがウェイウェイは捕獲時、生後約4ヵ月、体重10kgだったそうです。同映画の撮影にだいぶん使われたあと上海市杂技団にあずけられ、ミルクで育てられてきました。調教師の陸星奇さんはその当時からこのウェイウェイを飼育し、調教されてきた青年で、大変な苦労があったようです。幸い大きな病気歴はないとのこと。現在推定で体重が115kgです。

★パンダの生息数 四川省あたりにだいたい1000頭くらいと推定されていますが、昨年には主食の竹の花が咲いて竹が大量に枯れてパンダが150頭くらい死亡したという情報もあり、生息数も定かではありません。

★寿命

パンダの最長飼育記録は上海西郊公園で飼育中のものが15年4ヵ月で、現在も健在だということです。ちなみに、日本動物園水族館協会のハンドブックによれば、ブルックフィールドのメイラン（雄）というパンダが13年10ヵ月、ロンドンのチチ（雌）が13年9ヵ月、モスクワのアンアン（雄）が13年2ヵ月という飼育記録があります。

★環境 ウェイウェイの寝室は広さ20㎡くらいあり、ここに、動物園が設計した組立て檻（総アルミ・ア

環境づくりなど側面から動物園のスタッフが援助しました。途中、御承知のようなハプニングもありましたが、ウェイウェイの健康に何の変わりもなく、元気に次の訪問先、横浜に向いました。以下、ウェイウェイを中心に中国の飼育員にお聞きしたことなどお話しします。

ルマイト仕上げ）を置いて寝かせていた。しかし、飼育員や調教師が足を咬まれる事故が突発してからは、杂技団が持参したキャスター付きの移動檻に寝



演技のために飼育場へ運ばれるウェイウェイさせることが多かった。これは、調教師の陸さんしか、パンダに触れられないので、檻から檻への移動ができないからであった。毎日演技に出したりするとき及び午前中の日光浴をするときにキャスター付の檻に入れて運ぶので便利がよかった。

寝室の温度は10℃～12℃に保つように電気温風器4基をセットして、常時温度管理をきびしくしてい



屋内運動場

た。朝は9時すぎ飼育員が一度窓を開け放して、新鮮な空気に入れかえてやっていた。当り前のことだがよごれた空気はパンダによくないとのことであった。

★ウェイウェイの飼料 来阪当日に獣医の任さんからウェイウェイのメニューをお聞きしました。1日あたり次のとおりです。



屋外運動場で

竹の葉 4kg、鶏卵 4コ、粉ミルク 100g、砂糖 150g、食塩 6g、リンゴ 2コ、サトウキビ 500g～1kg、饅頭 1.5kg（トウモロコシ粉 75% 麦皮 20%、大豆粉 5%）

パンダの主食はなんといっても竹の葉ですが、1日3回程度、上記の量を分けて与えていました。夜に演技があるので、他の餌も与える時間は普通の動物園の展示しているパンダと若干差があると思われれますが……。

竹は昨年2回にわたって、長居公園の竹見本園の淡竹、猛宗竹や京都府の亀岡地方の高地及び低地のそれぞれ1年生、3年生の淡竹を採取し、上海に送りウェイウェイ君に試食いただいたのです。その結果、低地に生えている1年生の竹をよく食べることが分りました。竹はロスを見こして6kgを毎日早朝に飼育場に届けられました。陸さんによると、上海での竹よりやわらかくよく食べ



竹を食べる

ていると大変喜ばれました。竹を食べているのを見ていると葉の部分だけで軸の部分は食べていなかっ

た。上野動物園では軸の部分も食べるように聞いていましたが……。

ミルクは、極くうすいもので、100gの全脂粉乳を3回程度に分けて、砂糖で味つけして、お湯でといて水がわりに与えていました。一度にボールに一杯、約800cc程度です。

饅頭の作り方は、大きなボールにトウモロコシ粉、フスマと大豆粉をそれぞれの分量に入れ、鶏卵と砂



材料をこねる



まるめて穴をあける



蒸し器に入れてむす



出来上り

糖、塩で味付けしよく混ぜ合せ、水を入れて固くねる。手で丸めて親指で穴をあけてから蒸し器でむす。穴をあけるのは蒸した時によく火が通るようにするためです。大きい饅頭は約 600g。小さい方は約450gの大きさで、1日に大では2コ半、小では6コ程度を朝夕に分けて与えていました。リンゴやサトウキビは適宜与えるということでした。饅頭は竹を食べないと与えないという主義で、私も試食したが大変あまくておいしく、饅頭ばかり食べると肥えすぎてしまうのを警戒していました。



寝室で饅頭を食べる

最初用意した餌の材料では粉ミルクやトモロコシ粉にクリームがつき、直に取り換えたり、砂糖や塩の結晶の大きさがあわずに溶けにくいということで取り換えたり、最初のうちは飼料面でも大変気をつかった。こちらで用意した饅頭をウェイウェイが食べてくれたときには私達はほっとしたものであった。

間食にはビスケットや黄金糖のようなあまいものも与えていた。

★パンダの主な病気を獣医に伺ったところ、次のような6つの病気を教えて下さった。

- ①呼吸器病—これは風邪ひきで、パンダの一般的な病気だそうです。熱発があり、鼻がかわいたり、鼻水も出る。治療は抗生物質の注射を行っているそうです。
- ②胃腸炎—糞の状態が液状となり、大豆乳様の色になると注意信号となる。正常な糞はおおむね黄土色の固型で、笹の葉を多く食べたとき緑色がかったり。
- ③回虫症—ウェイウェイには1年に2回駆虫薬を与えているとのことですが、何か興味のある寄生虫卵があればと、ウェイウェイの糞を動物園に持

ち帰って虫卵検査をしましたが虫卵はでませんでした。よく健康管理ができていたのだなあと感じた次第です。

⑤子宮炎—これは雌のパンダだけの問題で、ウェイウェイには関係のない病気です。

⑥外傷性角膜炎—檻又は竹の切口で角膜が傷つく場合があるようです。

一般的にパンダの健康状態を見るのは、①結膜の色が赤くなっているかどうか。②鼻の乾燥の程度。③糞の硬さ、まるいのが正常便で、ミルク様の白色の液状になると元気がないときだという。体温は計れないので、蹠面を手で触れて体温を見ているとのことでした。

パンダが「ウェーウェー」というような鼻声を出しているときは気嫌のよいときで、喉から「ゴー、ゴー」とうなり声を出しているときは興奮しているということで檻から出して運動させるとか、調教させることが出来なくて、少し時間をおくとのことでした。

★調教について 調教師の陸さんは、ウェイウェイが2才になったときから調教を始めたそうです。陸さんは現在26才で、それまではクマ、イヌ、ロバ、ニワトリなどの調教をした経験があるとのこと。



ウェイウェイに日光浴をさせる陸さん

こうした経験を買われてパンダの調教をまかされたようです。

パンダは他の動物とは違い体が丈夫で力がある。しかしクマとは差があるとのこと、クマの方が教えやすいという返事でした。はじめは、前転から教えたようで、パンダはもともとのおそりのおそりした動作ですし、物おぼえもよくないので、1つの芸を覚えるのに何回もくりかえし、くりかえし時間をかけて教えたとのことでした。調教して6年、今

度、海外初公演ということで、テーブルマナーの特訓を受けて一つの演目を増やし、7種類の演技ができるようになってきました。演目の順序は、“車押し”



リハーサル中のウェイウェイ

“木馬”“前転”“玉ころがし”“テーブルマナー”“すべり台”“車に乗ってのラッパ吹き”です。この中で一番教えるのが難しかったのは“玉ころがし”で、台の上で仰向けになって四肢で大きなボールを回転させるものであったそうです。私なんかは“ラッパ吹き”が難しいのでは、とその教え方について水を向けると「それは秘密です」という返事でした。どうも仕かけはラッパの中にミルクを入れておいて、これを吸うことによって鳴るのではないかとされます。

テーブルマナーのときのフォークにつきさした白いお菓子は試食させていただいたが、マシュマロのようなふわふわした白いお菓子で、椰子の樹脂が入っていると、ねばりのあるものでした。

文化大革命前は、雑技団でトラなども調教したことがあるというが、文革中はやめていた。調教の基本は他の動物もパンダも同じで、ムチでしつけることと物を与えること、いわゆる「アメとムチ」です。

今のところ新しい演技は教えていないが教えれば今後もできるだろう。しかし、年令のこともあり、健康のことも考えて教えないのだ。(王 調教隊長)という説明でした。

舞台での陸さんは、ウェイウェイに対して、一見大きな動作や命令はしないようですが、陸さんの細かい動きとウェイウェイ自身が、次々に運び出される小道具を見て、次になにをやるかが分るようです。陸さんはフックのついたタクト大の細い鉄棒を持っていますが、テーブルマナーのときにビンに入れた好物のミルクを飲んだあと、これをウェイウェイの

首輪にひっかけるくらいです。これはビンをくわえてなかなか離さないからで、次の演技にスムーズに移れるように舞台の隅に誘導するためのよう受けとれました。



楽屋にて

咬傷を受けるというハプニングの後は、念のために更に大きなフック付の調教棒のオーダーがあったり、捕獲ネットや玉網を舞台裏に急用意をしたりテンヤワンヤでした。舞台上でウェイウェイが乱れて観客席に飛込んで、再度の咬傷事故というようなことは絶対に防止する必要があったからです。しかし、これもとりこし苦勞で、以後の演技もスムーズに行き、一同をホッとさせました。

★出発 1月22日早朝の7時、ようやく明るくなりかけた大阪を横浜に向けて、来た時と同じ大型ワゴ



横浜へ出発!

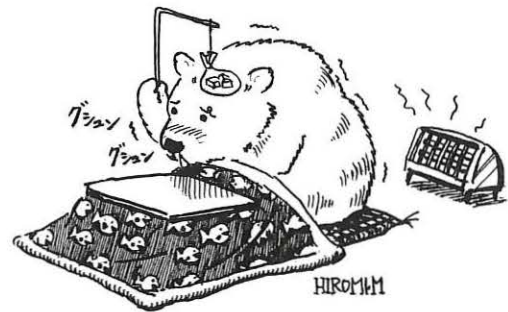
ン車に雑技団飼育員4名の付添で出発した。期間中は最高気温も8℃を越えたことがないというきびしい寒さでしたが、この朝もかなり厳しい寒さであった。出発直前に名神高速道路の一部区間で事故のため閉鎖になり、名阪道路を通って行くという経路変更があり、約9時間を要して無事横浜の会場入りをした。

(飼育課：樽本 勲)

獣医室から ②8

新しく来た北極熊

昨年12月15日、2頭のかわいらしい北極熊が入園しました。オスは旭川市旭山動物園で昭和54年12月3日に生まれ、メスは西ドイツの動物園で昭和54年11月に生まれたもので、共に1才とぬいぐるみの人形みたいな愛らしさです。入園後5日目にオスはユキオ、メスはユキコと愛称も決まりました。メスの方はまだ餌にミルクを与えていたとかで、肉食獣用のミルクを主食にし、その中に細かくきざんだパン、馬肉、鯨肉を少しずつ混ぜました。最初はミルクだけしか飲まなかったのですが、日々の経過とともにミルクにまぜた固型物も食べるようになってきました。入園以来、別々に収容飼育していましたが、メスが日ごとに元気活発になるのに比べ、オスの方は最初はパンやアジ、ソーセージ、鯨肉と食べたのに、日ごとに食欲がおちてきました。寄生虫検査の結果、メスは回虫が寄生していましたがオスは陰性で、原因不明のまま入園後9日目には全く餌を食べなくなりました。餌も鯨肉以外に馬肉、鶏肉、牛レバーやミルクを与えましたが嗅いがかぐだけで食べません。寒さがこたえているのでは……。まさか寒さに強い北極熊が……。しかしまだ1才の仔熊だし……。いろいろ議論のあげく、寒さからくる感冒を疑い保温に重点をおくことにしました。ユキオの寝室内にワラをたっぷり敷きつめ、天井に赤外線ランプ、檻の前に石油ストーブを持ちこみ、すきま風を防ぐため通路の扉にはビニールシートがかけられました。この食欲がなくなってからというものは年末のあわただしい中、担当の係員はもちろん、我々獣医も北極



熊舎へ交代で観察、給餌、投薬に1日に何回となく往復する日々でした。特に餌を全く食べなくなった日には生まれ故郷の旭山動物園に連絡をとり、好物の魚（オオナゴ）と肝油を送っていただくように手配しました。それが到着するまで何か食欲のわくものはないかと市場の鮮魚店でサバやサンマ、キス、イカなどを買い求め与えましたが、嗅いがかぐだけでソッポを向かれる始末。ほとんど困りはてました。食欲が全くなくなってから3日目（入園12日目）思いきって抗性物質の注射を行いました。それがよかったのか翌日からやや回復にむかひだし、ミルクを4ℓも飲むようになりました。その翌日には馬肉を少し（わずか100gですが）食べてくれました。その翌日、旭山動物園から待望の冷凍オオナゴがジェット便で到着しました。さっそく一部解凍してユキオの前に持って行くと、ユキオの動きが急に活発になりました。2、3尾、檻内にいれると、サバやサンマの時には横を向いたのに比べ、ガツガツ食べるではありませんか。それもうれしそうに……。やっどミルクと馬肉を少量食べれるようになった程度なのに、このオオナゴという魚（カマスゴを倍ぐらいにした魚）をあつというまに1kgもペロリ。これに胃も刺激されたのか、以後日を追って馬肉、卵黄、パン、ミルクを順調に採食するようになり、入園20日目にはやっど一安心できる状態になりました。

元気になったところで、約1ヶ月の見合いで十分なれ親しんだ2頭を1月17日同居させました。2頭共まだ子供なのでトラブルもなく、さかんにじゃれあう幼いカップルが誕生しました。それにしても単なるカゼ以外にユキオはどうもホームシックにもかかっていたのかもしれませんが。

5・6年後にⅡ世の誕生を夢みて……

（紙上をお借りして旭山動物園の皆様には厚くお礼申し上げます。）（飼育課：宮下 実）



動物園ニュース

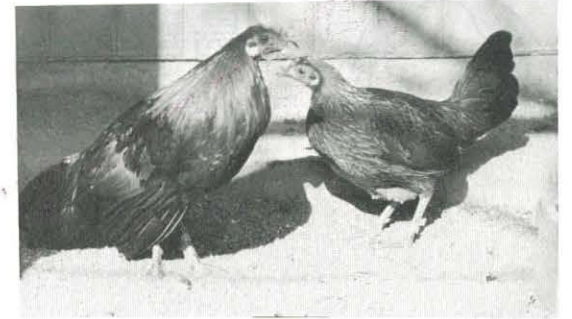
§ エミューの産卵

2年前に来園したエミューが、昨年12月19日に初めて産卵しました。その後順調に数日間隔で産卵が続き、1月25日現在10個産卵しています。初めての産卵ですが、孵化の可能性は充分あると思われます。4年前、みさき公園からいただいた卵は56日で孵化していますので、うまくゆけば2月20日頃に雛誕生のニュースをお知らせできるかもしれません。

§ ボランティア例会

1月11日、ボランティアの例会が開かれました。講師は例年どおり、“おもちゃの動物園長”吉田平七郎先生でした。1月2日から31日まで北園展示館で開催中の「エミュー

トリとよく似た色と形をしていますが、体格はずっと小さく、さすが野生種と思わせる姿をしています。“ニワトリの祖先”という西年にふさわしい贈物を



いただいたわけです。これで当園には、以前からいたハイロヤケイとアオエリヤケイを含めて4種のヤケイのうち3種がそろいました。

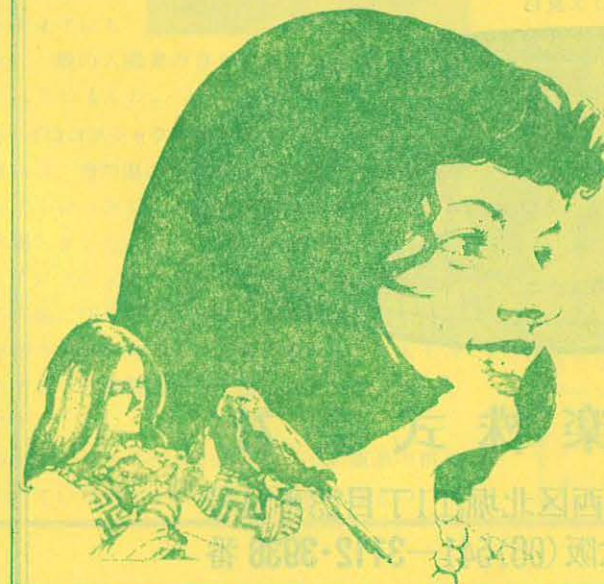
両種とも検疫を終了し、1月21日から北園キジ舎で展示しています。

§ ホッキョクグマの若いカップルお目見え

先月号のニュースでお知らせしました2頭のホッキョクグマのカップルも、約1ヵ月のオリごしの見



くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

獣医室から ②8

新しく来た北極熊

昨年12月15日、2頭のかわいらしい北極熊が入園しました。オスは旭川市旭山動物園で昭和54年12月3日に生まれ、メスは西ドイツの動物園で昭和54年11月に生まれたもので、共に1才とぬいぐるみの人形みたいな愛らしさです。入園後5日目にオスはユキオ、メスはユキコと愛称も決まりました。メスの方はまだ餌にミルクを与えていたとかで、肉食獣用のミルクを主食にし、その中に細かくきざんだパン、馬肉、鯨肉を少しずつ混ぜました。最初はミルクだけしか飲まなかったのですが、日々の経過とともにミルクにまぜた固型物も食べるようになってきました。入園以来、別々に収容飼育していましたが、メスが日ごとに元気活発になるのに比べ、オスの方は最初はパンやアジ、ソーセージ、鯨肉と食べたのに、日ごとに食欲がおちてきました。寄生虫検査の結果、メスは回虫が寄生していましたがオスは陰性で、原因不明のまま入園後9日目には全く餌を食べなくなりました。餌も鯨肉以外に馬肉、鶏肉、牛レバーや

熊舎へ交代で観察、給餌、投薬に1日に何回となく往復する日々でした。特に餌を全く食べなくなった日には生まれ故郷の旭山動物園に連絡をとり、好物の魚（オオナゴ）と肝油を送っていただくように手配しました。それが到着するまで何か食欲のわくものはないかと市場の鮮魚店でサバやサンマ、キス、イカなどを買い求め与えましたが、嗅いをかぐだけでソッポを向かれる始末。ほとんど困りはてました。食欲が全くなくなってから3日目（入園12日目）、思いきって抗性物質の注射を行いました。それがよかったのか翌日からやや回復にむかひだし、ミルクを4ℓも飲むようになりました。その翌日には馬肉を少し（わずか100gですが）食べてくれました。その翌日、旭山動物園から待望の冷凍オオナゴがジェット便で到着しました。さっそく一部解凍してユキオの前に持って行くと、ユキオの動きが急に活発になりました。2、3尾、檻内にいれると、サバやサンマの時には横を向いたのに比べ、ガツガツ食べるではありませんか。それもうれしそうに……。やっ

動物園ニュース

§ エミューの産卵

2年前に来園したエミューが、昨年の12月19日に初めて産卵しました。その後順調に数日間隔で産卵が続き、1月25日現在10個産卵しています。初めての産卵ですが、孵化の可能性は充分あると思われます。4年前、みさき公園からいただいた卵は56日で孵化していますので、うまくゆけば2月20日頃に雛誕生のニュースをお知らせできるかもしれません。

§ ボランティア例会

1月11日、ボランティアの例会が開かれました。講師は例年どおり、“おもちゃの動物園長”吉田平七郎先生でした。1月2日から31日まで北園展示館で開催中の「エトにちなむおもちゃ展」に出品されたおもちゃの一つ一つについて約1時間30分にわたり説明してくださいました。ユーモアを混ぜた先生のお話には、ボランティアはもとより、一般の入園者の方々も多数集まり、熱心に聞き入っていました。

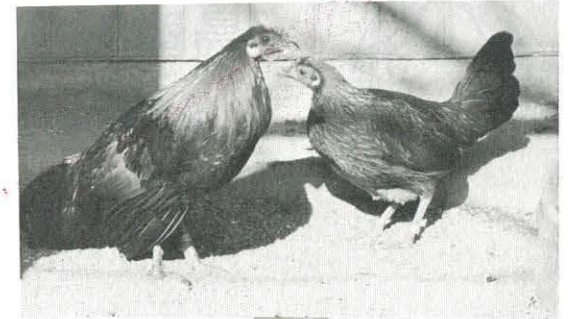
§ ハイロコクジャク、セキシヨクヤケイ入園

1月15日、香川県の栗林公園動物園のご好意により、ハイロコクジャクとセキシヨクヤケイが1番づつ来園しました。

ハイロコクジャクは東南アジアの海拔1500mぐらいの高地に住むキジの仲間です。羽根に特徴的な目玉模様を持つ美しい鳥です。日本の動物園では天王寺を含めて5つの動物園にしか飼われていない珍しい鳥です。

一方、セキシヨクヤケイはニワトリの直系の祖先といわれているヤケイで、トウテンコウなどのニワ

トリとよく似た色と形をしていますが、体格はずっと小さく、さすが野生種と思わせる姿をしています。“ニワトリの祖先”という西年にふさわしい贈物を



いただいたわけです。これで当園には、以前からいたハイロヤケイとアオエリヤケイを含めて4種のヤケイのうち3種がそろいました。

両種とも検疫を終了し、1月21日から北園キジ舎で展示しています。

§ ホッキョクグマの若いカップルお目見え

先月号のニュースでお知らせしました2頭のホッキョクグマのカップルも、約1ヵ月のオリごしの見



合いが順調に進み、1月17日から2頭いっしょにお目見えしました。我々の心配をよそに、2頭とも1才とまだ子供のためかすぐに仲良くなり、元気に走ったり水に飛び込んだりして、そのかわいい2頭の姿は入園者の人気を集めています。また、名前も雄が“ユキオ”、雌が“ユキコ”と決まり、動物園職員一同、数年後の二世誕生をめざして頑張っています。

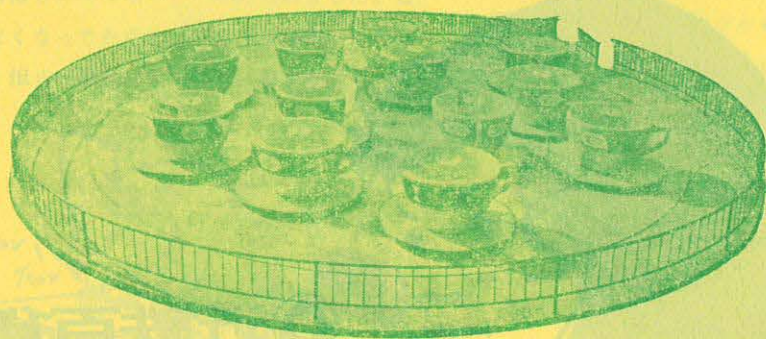
§ 上海市曲技団一行来園

1月17日、おりから大阪で公演中の上海市曲技団の朱鴻興副団長以下30名の一行が、公演の合間をぬって来園されました。約3時間にわたって園内を見学されました。

休園日

2月16日(月)、3月16日(月)、4月20日(月)、5月18日(月)

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和56年2月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

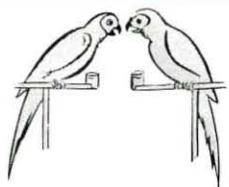
第18巻第2号(通巻186号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

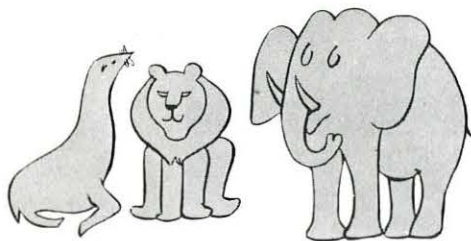
1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

橋本 一郎・土井 良彦・橋本 勲・中川 信男・宮下 大野 尊信・森谷 文彦・農本 武志・野口 秀富・仲谷

矢・長瀬健二郎・榎原 安昭・森本 泰利・荻高橋 真三・板野 健・石島 宏胤